

『八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究』

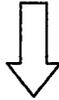
訂 正 の お 願 い

編集担当（関連箇所：「例言」および「報告書抄録」）

【誤】第 I ～III・V部および図版：杉井 健

第IV部：竹中克繁

全 体：杉井 健



【正】第 I ・II・IV・V部および図版：杉井 健

第III部：竹中克繁

全 体：杉井 健

序 文

熊本大学へ赴任した早々、「アルタイ考古学」という言葉を耳にした。一瞬、外国考古学の一つかと思ったが、何のことはない、熊本の考古学を比喩した言葉だという。熊本では未報告の資料がとて多いから、未知の資料を発見したと思っても、すぐに「それと同じようなものは〇〇にあるたい」と言われるという。その語尾、「あるたい」だ。

熊本大学での生活が日常になってきた頃、なぜ熊本にかんする考古学をやらないのかという声をときどき耳にするようになった。赴任後の5年間は琉球列島の調査にたずさわっていたから、やはり熊本に住む古墳研究者の方々は物足りなさを感じておられたのだと思う。地元の考古学をまず第1に考えるというのは、関西圏や東京圏の大学とは比較にならないほど、地方大学にとってはとても大切なことだ。

そして、熊本大学での生活が5年目を迎えようとしていた頃、ようやく熊本での古墳調査を開始することができた。植木町高熊古墳の測量調査だ。このときはじめて、熊本における私の立ち位置を具体的な姿として認識することができたのだと思う。

それ以来、毎年何らかのかたちで古墳の調査を行ってきたのだが、その一方で、「アルタイ考古学」と比喩される熊本で新たなところを掘っていてもいいのだろうか、との思いが頭をよぎることがあった。そして、そうした状況を少しでも改善することができれば、と思っていた。

そうした思いから始めたのが「マロ塚古墳」にかんする共同研究であり、そして本書で成果を示した「八代海沿岸地域」にかんする共同研究であった。

かつての調査資料を再整理したり、また未報告資料を世に出したりするのは、とても手間のかかる地味な仕事である。でも、研究のもっとも根幹をなすのは、基礎資料を正しく提示することだと信じる。そうした仕事の第一歩を、地元熊本の方々や熊本大学の卒業生と歩み出すことができたのは、私にとってとてもうれしいことである。

今後もこのような活動の実現を模索していきたいと思っているが、同時に、今回の共同研究に参加してくれた私よりもずっと若い考古学徒が、それぞれの地域・分野で大きく羽ばたいてくれることを心より願っている。

2009年3月

杉 井 健

例 言

1 本書は、日本学術振興会科学研究費補助金を受けて実施した研究の報告書である。研究の課題、経費、成果等は以下の通りである。

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006年度～2008年度

課題名：八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究

課題番号：18520587

研究組織：研究代表者 杉井 健（熊本大学文学部）

研究協力者 木村 龍生（熊本県教育委員会）

島津屋 寛（熊本市教育委員会）

高木 恭二（宇土市教育委員会）

竹中 克繁（宮崎市教育委員会）

西嶋 剛広（宮崎市教育委員会）

藤本 貴仁（宇土市教育委員会）

古城 史雄（熊本県教育委員会）

前田真由子（熊本県教育委員会）

牧野 幸子（熊本市教育委員会）

三好栄太郎（香芝市教育委員会）（50音順、所属は2009年3月現在）

研究経費：2006年度 直接経費：120万円、間接経費：0円

2007年度 直接経費：100万円、間接経費：30万円

2008年度 直接経費：130万円、間接経費：39万円

研究成果：本書

研究発表：

〔学会発表〕 杉井 健・三好栄太郎 2006「天草の古墳－熊本県上天草市千崎古墳群の調査成果を中心として－」『鹿児島県考古学会秋季大会研究発表会』発表要旨資料（2006年10月15日開催） 鹿児島県考古学会：pp. 6－7

〔図 書〕 一本尚之・高濱美来編 2009「千崎古墳群第7次調査報告」『考古学研究室報告』第44集 熊本大学文学部考古学研究室：pp. 1－28

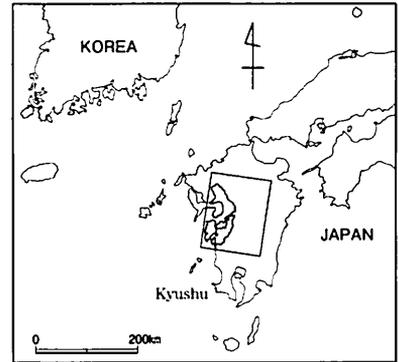
山野ケン陽次郎・有馬絢子編 2008「千崎古墳群第6次調査報告」『考古学研究室報告』第43集 熊本大学文学部考古学研究室：pp. 1－36

甲元眞之・杉井 健編著 2007「上天草いにしえの暮らしと古墳」上天草市史大矢野町編1 原始・古代 熊本県上天草市：p. 378（総）

三好栄太郎・仙波靖子編 2007「千崎古墳群第5次調査報告」『考古学研究室報告』第42集 熊本大学文学部考古学研究室：pp. 1－36

三好栄太郎編 2007「桐ノ木尾ばね古墳実測調査報告」『考古学研究室報告』第42集 熊本大学文学部考古学研究室：pp. 37－54

2 本書は5部構成をとる。第I部で研究の目的と経過を、第II・III部で2つの遺跡にかんする出土遺物の整理報告を、第IV部で研究協力者による研究成果を示し、第V部でそれらを総括した。なお、当補助金の一部を使用して実施した古墳の発掘調査や実測調査の成果については、本書とは別の図書（上記研究発表の図書の項）としてすでにその概要を公表しているのので、ここに再録することはしなかった。



3 第II・III部で出土遺物の報告を行った遺跡の所在地および発掘調査年月は以下の通りである。

[カミノハナ古墳群]

所在地：熊本県上天草市松島町合津6276・6278番地

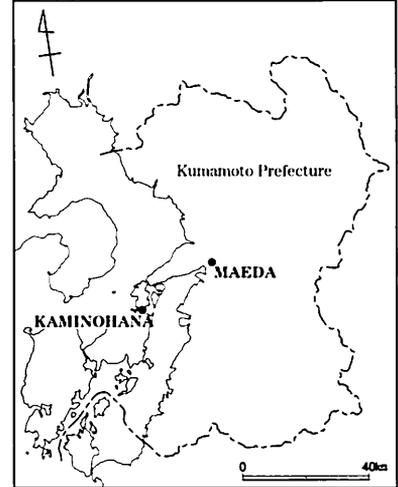
発掘調査：第1次調査 1981年3～4月

第2次調査 1982年3～4月

[松橋前田遺跡A地点]

所在地：熊本県宇城市松橋町松橋333番地

発掘調査：1965年3月上旬



遺跡の位置

4 本研究を実施するにあたっては、次の方々から多くのご教示とご援助を賜った。記して感謝の意を表したい。

伊藤圭二氏と佐藤伸二氏には、松橋前田遺跡A地点出土埴輪の整理作業を実施することの許可をいただき、当時の写真や図面をご提供いただいたほか、調査時の様子をご教示いただいた。

橋本達也氏（鹿児島大学総合研究博物館）には、鉄製品のX線画像撮影をしていただいたのみならず、鉄製武器・武具の観察・実測の仕方についてさまざまなご教授をいただいた。

田上勇一郎氏と片多雅樹氏（福岡市埋蔵文化財センター）には、蛍光X線分析によって耳環の材質を鑑定していただいた。

八代海沿岸地域に所在する遺跡の現地踏査にあたっては、有明町漁業協同組合、正岡祐子氏・辻秀文氏（水俣市教育委員会）、河北篤司氏（阿久根市教育委員会）のご協力を賜った。

そして、上天草市所在の千崎古墳群・桐ノ木尾ばね古墳の発掘調査・実測調査の実施にあたっては、上天草市教育委員会と地元維和島住民の方々から多大なご援助とご協力を賜った。とくに、山崎勝安氏と成田健一氏には雑木や下草の伐採をお引き受けいただき、さらに上天草市の遺跡について多くのご教示をいただいた。

5 本書の編集は、第I～III・V部および図版を杉井健が、第IV部を竹中克繁が行った。本書全体の編集は杉井が担当した。

八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究

目 次

序 文
例 言

第 I 部 研究の目的と経過

研究の目的と経過	杉井 健	3
1 古墳時代における八代海沿岸地域の重要性		3
2 研究の目的と経過		4

第 II 部 カミノハナ古墳群出土遺物の再整理報告

第 1 章 位置と環境	杉井 健	9
第 2 章 過去の調査と成果	杉井 健	15
1 古墳群の認識から初の考古学調査まで		15
2 熊本大学による発掘調査		15
(1) 調査経過		15
(2) 調査成果		16
第 3 章 出土遺物の現状と再整理の対象遺物	杉井 健	23
1 出土遺物の混乱と再整理作業開始の契機		23
2 再整理の対象とした遺物		26
第 4 章 出土遺物の再整理報告		27
1 1号墳出土遺物		27
(1) 須恵器	木村龍生	27
(2) 埴輪		28
①円筒埴輪	竹中克繁	28
②形象埴輪	前田真由子	36
(3) 武具	西嶋剛広	39
①冑片		39
②鋳片		40
③1号墳出土甲冑の位置付け		40
(4) 武器	牧野幸子	40
①鉄鏃		40
②1号墳出土鉄鏃の位置付け		49
(5) 工具	三好栄太郎	50
刀子		50
(6) 装身具	西嶋剛広	50
ガラス小玉		50
2 2号墳出土遺物		51
(1) 須恵器	木村龍生	51
(2) 武器		51
①鉄剣	三好栄太郎	51

	②鉄鏃	牧野幸子	52
(3)	工具	三好栄太郎	52
	刀子		52
3	3号墳出土遺物		52
(1)	須恵器	木村龍生	52
(2)	武具	西嶋剛広	54
	①横矧板鉾留短甲		54
	②3号墳出土横矧板鉾留短甲の位置付け		62
(3)	武器		62
	①鉄刀	三好栄太郎	62
	②鉄鏃	牧野幸子	63
(4)	工具	三好栄太郎	65
	①刀子		65
	②刀子鉏		65
(5)	装身具		66
	①耳環	島津屋寛	66
	②ガラス小玉	西嶋剛広	66
4	4号墳出土遺物		66
(1)	武器	三好栄太郎	66
	鉄刀		66
5	6号墳出土遺物		66
(1)	須恵器	木村龍生	66
(2)	武器		67
	①鉄刀	三好栄太郎	67
	②鉄劍片	〃	67
	③鉄鏃	牧野幸子	67
(3)	工具	三好栄太郎	68
	刀子		68
(4)	器種不明鉄器	島津屋寛	69
(5)	装身具		69
	①耳環	島津屋寛	69
	②勾玉	西嶋剛広	70
	③切子玉	〃	70
	④丸玉	〃	71
	⑤ガラス小玉	〃	71
6	出土古墳不明遺物		71
(1)	須恵器	木村龍生	71
(2)	武器	三好栄太郎	71
	両頭金具		71
(3)	工具	三好栄太郎	73
	刀子		73
(4)	装身具	島津屋寛	73
	耳環		73

第5章	まとめ	杉井 健	75
1	カミノハナ古墳群の立地		75
2	出土遺物にかんする新知見		75
3	古墳の築造時期と石室構造		78
4	今後に残された課題		80

第Ⅲ部 松橋前田遺跡A地点出土埴輪の整理報告

第1章	位置と環境	杉井 健	87
第2章	1965年の発掘調査概要	杉井 健	91
第3章	今回の整理作業に至る経緯とその経過	杉井 健	93
第4章	出土埴輪の整理報告	竹中克繁	95
第5章	まとめ	竹中克繁	105

第Ⅳ部 八代海沿岸地域における古墳時代の諸問題

1	天草の横穴式石室	古城史雄	111
2	熊本県下の古墳時代箱式石棺	島津屋寛	125
3	熊本県地域における須恵器の受容と展開	木村龍生	157
4	窖窯焼成円筒埴輪生産の地域的様相－八代海沿岸地域の事例－	竹中克繁	171
5	熊本県出土人物埴輪にみる製作方法	前田真由子	183
6	天草北部島嶼域出土甲冑の検討	西嶋剛広	195
7	両頭金具の構造と奈良県における出土例	三好栄太郎	207
8	天草式製塩土器の形態変遷試論－碗部を中心に－	藤本貴仁	219

第Ⅴ部 総 括

八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の特質とその検討課題	杉井 健	231
-------------------------------	------	-----

図 版

報告書抄録

図 版 目 次

カミノハナ古墳群

- 図版 1 1 1号墳出土須恵器
2 2・6号墳出土および出土古墳不明須恵器
3 1号墳出土須恵器細部 (1. 樋穿孔部外面, 2. 同内面, 3. 器台波状文)
- 図版 2 1 3号墳出土須恵器
2 3号墳出土坏蓋・坏身内面
- 図版 3 1号墳出土円筒埴輪 (1)
- 図版 4 1号墳出土円筒埴輪 (2)
- 図版 5 1号墳出土形象埴輪
- 図版 6 3号墳出土短甲外面
- 図版 7 3号墳出土短甲内面
- 図版 8 3号墳出土短甲右前胴外面
- 図版 9 3号墳出土短甲右前胴内面
- 図版10 1 3号墳出土短甲製作加工痕 (1. 鋌頭周囲の鉄板のくぼみ, 2. 変形した鋌頭, 3. 鋌脚, 4. 叩き潰された鋌脚, 5. 性格不明の工具痕 (円形のくぼみ) (破片26内面), 6. 同 (破片18内面))
2 3号墳出土短甲部位不明片外面
3 同内面
4 1号墳出土冑・鋌片
- 図版11 1 2・3・4・6号墳出土刀剣
2 1・2・3・6号墳出土および出土古墳不明刀子
3 出土古墳不明両頭金具および6号墳出土器種不明鉄器
- 図版12 1号墳出土鉄鏃 (1)
- 図版13 1 1号墳出土鉄鏃 (2)
2 2・3・6号墳出土鉄鏃
3 1号墳出土鉄鏃細部 (1・2. 片丸造 (左) と両丸造 (右), 3. 角関 (左) と台形関 (右))
- 図版14 装身具 (1・2段目・3段目左4点: 1号墳出土, 3段目右1点・4～7段目および1: 3号墳出土, 8段目および2～6: 6号墳出土, 7～15: 出土古墳不明)
- 図版15 短甲X線画像 (1)
- 図版16 短甲X線画像 (2)
- 図版17 短甲X線画像 (3)
- 図版18 短甲X線画像 (4)
- 図版19 刀子、1号墳出土冑・鋌片、両頭金具、耳環X線画像
- 図版20 鉄刀X線画像
- 図版21 鉄刀、鉄剣、器種不明鉄器X線画像
- 図版22 1号墳出土鉄鏃X線画像 (1)
- 図版23 1号墳出土鉄鏃X線画像 (2)
- 図版24 1号墳出土鉄鏃X線画像 (3)
- 図版25 2・3・6号墳出土および出土古墳不明鉄鏃X線画像
- ### 松橋前田遺跡A地点
- 図版26 松橋前田遺跡A地点出土埴輪集合
- 図版27 松橋前田遺跡A地点出土埴輪 (1)
- 図版28 松橋前田遺跡A地点出土埴輪 (2)

- 図版29 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(3)
- 図版30 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(4)
- 図版31 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(5)
- 図版32 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(6)
- 図版33 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(7)
- 図版34 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(8)
- 図版35 松橋前田遺跡A地点出土埴輪(9)(色調の異なる胎土を併用する埴輪)(上:外面, 下:内面)
- 図版36 松橋前田遺跡A地点出土埴輪口縁部(1~3段目:朝顔形円筒埴輪, 4段目:普通円筒埴輪)(左:外面, 右:内面)
- 図版37 松橋前田遺跡A地点出土埴輪底部
- 図版38 1 朝顔形円筒埴輪第1口縁部内面の接合痕(1)
 2 朝顔形円筒埴輪第1口縁部内面の接合痕(2)
 3 未穿孔の三角形透孔
 4 透孔と線刻文様との重複
 5 線刻文様(1)
 6 線刻文様(2)
 7 線刻文様(3)
 8 線刻文様(4)

カミノハナ古墳群

- 図版39 1 1号墳横穴式石室(第2次調査時, 1982年)
 2 1号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版40 1 2号墳横穴式石室(第1次調査時, 1981年)
 2 2号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版41 1 3号墳横穴式石室(第1次調査時, 1981年)
 2 3号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版42 1 4号墳横穴式石室(第1次調査時, 1981年)
 2 4号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版43 1 5号墳横穴式石室(第1次調査時, 1981年)
 2 5号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版44 1 6号墳横穴式石室(第2次調査時, 1982年)
 2 6号墳横穴式石室の現状(2006年5月)
- 図版45 1 7号墳の現状(2006年5月)
 2 8号墳の現状(2006年5月)

松橋前田遺跡A地点

- 図版46 1 埴輪出土状況(1)
 2 埴輪出土状況(2)
- 図版47 1 埴輪出土状況(3)
 2 埴輪出土状況(4)
- 図版48 1 埴輪出土状況(5)
 2 埴輪出土状況(6)
- 図版49 1 埴輪出土状況(7)
 2 埴輪出土状況(8)
- 図版50 1 埴輪出土状況(9)
 2 埴輪出土状況(10)

挿 図 目 次

例言

遺跡の位置	iv
-------	----

第 I 部

図 1 共同研究のメンバー	4
図 2 天草・竹島 3 号墳の調査	4
図 3 カミノハナ古墳群の調査	5
図 4 カミノハナ古墳群出土遺物の再整理作業	5

第 II 部

図 5 カミノハナ古墳群の位置	10
図 6 八代海周辺の横穴式石室墳と横穴墓の分布	11
図 7 1号墳埴輪出土状況(1956年)	15
図 8 高舞登山からみた天草松島	16
図 9 上空からみた永浦島(丸がカミノハナ古墳群)	16
図 10 カミノハナ古墳群の古墳分布図	17
図 11 3号墳横穴式石室の左支門部	18
図 12 1981年調査参加者	18
図 13 1号墳・2号墳の横穴式石室実測図	19
図 14 3号墳・4号墳の横穴式石室実測図	20
図 15 5号墳・6号墳の横穴式石室実測図	21
図 16 1982報告で示された鉄鏃・鉄斧実測図	25
図 17 1号墳出土須恵器実測図	27
図 18 1号墳出土円筒埴輪実測図(1)	29
図 19 1号墳出土円筒埴輪実測図(2)	31
図 20 1号墳出土円筒埴輪実測図(3)	33
図 21 円筒埴輪の復元案(Scale: 1/6)	34
図 22 1号墳出土形象埴輪実測図(1)	37
図 23 1号墳出土形象埴輪実測図(2)	38
図 24 1号墳出土冑・鍔片実測図	39
図 25 1号墳出土鉄鏃実測図(1)	42
図 26 1号墳出土鉄鏃実測図(2)	43
図 27 1号墳出土鉄鏃実測図(3)	44
図 28 1号墳出土鉄鏃実測図(4)	45
図 29 1号墳出土鉄鏃実測図(5)	46
図 30 1号墳出土鉄鏃実測図(6)	47
図 31 1号墳出土刀子実測図	50
図 32 2・6号墳出土および出土古墳不明須恵器実測図	51
図 33 2号墳出土鉄剣実測図	51
図 34 2号墳出土鉄鏃実測図	52
図 35 2号墳出土刀子実測図	52
図 36 3号墳出土須恵器実測図	53
図 37 3号墳出土短甲実測図(1)	56

図38	3号墳出土短甲実測図(2)	57
図39	3号墳出土短甲展開図	58
図40	3号墳出土短甲復元図	59
図41	3号墳出土鉄刀実測図	63
図42	3号墳出土鉄鏃実測図	64
図43	3号墳出土刀子・鏹実測図	65
図44	3号墳出土耳環実測図	66
図45	4号墳出土鉄刀実測図	66
図46	6号墳出土刀剣実測図	67
図47	6号墳出土鉄鏃実測図	68
図48	6号墳出土刀子実測図	69
図49	6号墳出土器種不明鉄器実測図	69
図50	6号墳出土耳環実測図	70
図51	出土古墳不明両頭金具実測図	72
図52	出土古墳不明刀子実測図	73
図53	出土古墳不明耳環実測図	74
図54	1982報告で示された石室平面プラン	78
図55	略測による現状の石室平面プラン(2006年5月)	79
第Ⅲ部		
図56	松橋前田遺跡の位置(黒丸の位置)と周辺の地形(実体視可能)	87
図57	松橋前田遺跡の位置	88
図58	松橋前田遺跡の現状(2009年1月)	89
図59	松橋大塚古墳の現状(2009年1月)	89
図60	松橋大塚古墳墳丘測量図	89
図61	松橋前田遺跡1965年調査時のトレンチ配置図	91
図62	熊本大学に所蔵されている未報告の松橋前田遺跡A地点出土埴輪	93
図63	宇城市立松橋郷土資料館に展示されている埴輪	94
図64	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(1)	95
図65	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(2)	97
図66	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(3)	98
図67	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(4)	99
図68	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(5)	100
図69	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(6)	101
図70	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(7)	102
図71	松橋前田遺跡A地点出土円筒埴輪実測図(8)	103
第Ⅴ部		
図72	小鼠蔵1号墳の石室	235
図73	大鼠蔵尾張宮古墳の石室	235

表 目 次

第Ⅱ部

表 1	八代海周辺の横穴式石室墳と横穴墓（1）	12
表 2	八代海周辺の横穴式石室墳と横穴墓（2）	13
表 3	八代海周辺の横穴式石室墳と横穴墓（3）	14
表 4	1982報告で示された遺物と再整理対象遺物の関係	24
表 5	1号墳出土円筒埴輪観察表	35
表 6	1号墳出土鉄鍬計測表（1）	48
表 7	1号墳出土鉄鍬計測表（2）	49
表 8	3号墳出土短甲片一覧表	58
表 9	3号墳出土鉄鍬計測表	64
表10	6号墳出土鉄鍬計測表	68